

会報

No. 22

2025年12月25日発行

発行・編集 日本学習社会学会事務局

Japanese Association for the Study of Learning Society

日本学習社会学会

事務局 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
お茶の水女子大学グローバル協力センター
平山雄大研究室 気付
学会HP: <http://learning-society.net/>

会報第22号をお届けします。本号では第22回大会の課題研究の報告、公開シンポジウム（会場校企画）の報告、理事会および総会の報告、年報第22号の自由研究論文の募集などについてお知らせいたします。会員の皆様には、引き続き本学会の発展のためにご協力くださいますようお願い申し上げます。

第22回大会を終えて

第22回大会実行委員会実行委員長 坂内 夏子

日本学習社会学会第22回大会は、2025年9月6日（土）と7日（日）の両日に、早稲田大学早稲田キャンパス（14号館）において開催されました。早稲田大学における大会の開催は久しぶりであったと思います。初日の来場者は約60名、二日目が約40名となり、2日観でのべ100名余の方々にご来場いただきました。

初日はまず8件の自由研究が発表されました。次いで公開シンポジウム「スクール・コミュニティにおける学び—学習者のエージェンシーと地域社会の可能性—」では、玉井康之会員を司会者として、佐藤千津会員（国際基督教大学）、米川 充氏（にしみたか学園コミュニティ・スクール委員会委員、三鷹市公立学校PTA連合会前会長）、田中康雄氏（東京都台東区立上野小学校校長）が報告されました。

二日目の午前は二つの課題研究報告が行われました。研究推進委員会企画I「リカレント教育におけるリスクリミングの展望と課題」は、川前あゆみ会員（北海道教育大学・研究推進委員）の進行で、出相泰裕会員（大阪教育大学）「高等教育段階におけるリカレント教育の可能性と課題」、池原真佐子氏（株式会社Mentor For 代表）「人的資本経営時代におけるリスクリミングとウェルビーイング：企業現場からみる「社外メンター」のニーズの高まりと具体事例」、須賀忠芳会員（東洋大学）「リスクリミングにつらなる認識形成の射程—観光歴史教育の観点から—」が報告されました。国際交流委員会企画II「生涯学習における高齢者教育

—韓国・中国・カナダの事例を通して—」は、平山雄大会員（お茶の水女子大学・国際交流委員）の進行で、吳世蓮会員（関東学院大学）「韓国のソビマルシニアセンターにおける高齢者生涯学習の課題と可能性—多文化教育の視点からみる地域実践の事例—」、趙天歌会員（関東学院大学・非常勤）

「中国における高齢者の社会参加と学びをつなぐ世代間交流—社区における実践と課題—」、成島美弥氏（カナダ・ブロック大学）「カナダの生涯学習社会における高齢者教育の現状と課題—オンタリオ州の事例の考察から—」が報告されました。午後は13件の自由研究発表が行われました。

本大会開催の準備と運営において、細やかなご配慮をくださった赤尾勝己前会長、田中潤一前事務局長、大会運営を支えていただいた学生・院生・学会事務局・会員の皆様、自由研究発表および課題研究、公開シンポジウムの企画者・司会者・報告者の皆様に、心より御礼申し上げます。

CONTENTS

第22回大会を終えて	1
課題研究報告	2
公開シンポジウム報告	4
理事会報告	5
第22回総会報告	8
新会長、各種委員会新委員長挨拶	9
お知らせ	10
年報第22号の自由投稿論文募集…	11

課題研究Ⅰ報告

リカレント教育におけるリスクリソースの展望と課題

【司会】 川前 あゆみ 会員（北海道教育大学）

【報告者】

報告1：出相 泰裕 会員（大阪教育大学）

「高等教育段階におけるリカレント教育の可能性と課題」

報告2：池原 真佐子 氏（株式会社 Mentor For 代表）

「人的資本経営時代におけるリスクリソースとウェルビーイング：
企業現場からみる『社外メンター』のニーズの高まりと具体事例」

報告3：須賀 忠芳 会員（東洋大学）

「リスクリソースについての認識形成の射程
—観光歴史教育の観点から—」

第22回研究大会の課題研究Ⅰでは「リカレント教育におけるリスクリソースの展望と課題」をテーマとして、9月7日（日）10:00-12:00に行われた。参加者数は28名である。

今大会の課題研究Ⅰでは、リカレント教育におけるリスクリソースの取り組みについて、その展望と課題を明らかにすることを目的にして検討した。第1報告者の出相泰裕会員の報告では、リカレント教育の理念及びその変容について高等教育段階からとらえた。そのうえでリスクリソースとウェルビーイングの立ち位置に触れ、リカレント教育の推進を通じて生涯にわたって広範な社会的階層が高等教育の当事者に成り得ることの重要性を提起した。

第2報告者の池原真佐子氏の報告では、企業の状況をいくつかの事例から具体的に紹介された。その中で、近年大企業で急増している「社外メンター」制度の活用とその効果について触れ、従業員のキャリア支援における構造的な課題とリスクリソースを阻む「学びほぐし」の必要性を提起した。

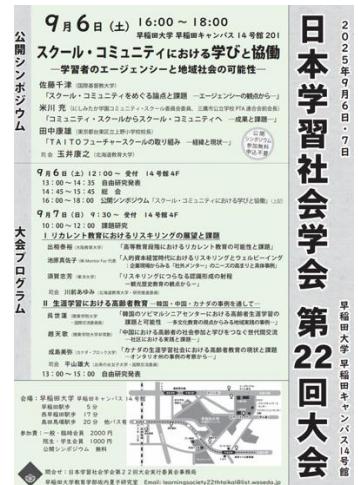
第3報告者の須賀忠芳会員の報告では、大学での観光教育と歴史教育の視点から実践的な取組み事例を紹介された。観光歴史教育の手法から、学習者は観光者の視点を再考していくことの状況に置かれ、同時にリスクリソースについての認識形成

に気づく学びの重要性を提起した。

協議では、3名の報告内容や提起に関する質疑応答の発言が得られ、時代の変化が進む中で学び続ける土台を学校教育でどう考えるか、これまでの事象・価値観を新たに創造する企業内外研修を尊重していく必要性が確認された。さらに学習観の変革も課題となることが確認された。

最後に3名の登壇者、会場参加者には、開会中の急な会場内機器不調により教室移動となる中でも熱心な討議にご協力いただきました。記してお礼申し上げます。ありがとうございました。

報告：川前 あゆみ（研究推進委員）



課題研究Ⅱ報告 生涯学習における高齢者教育 -韓国・中国・カナダの事例を通して-

【司会】 平山 雄大 会員（お茶の水女子大学）

【報告者】

報告1：吳 世蓮 会員（関東学院大学）

「韓国のソビマルシニアセンターにおける高齢者生涯学習の課題と可能性
—多文化教育の視点からみる地域実践の事例—」

報告2：趙 天歌 会員（関東学院大学非常勤）

「中国における高齢者の社会参加と学びをつなぐ世代間交流
—社区における実践と課題—」

報告3：成島 美弥 氏（ご招待・ブロック大学）

「カナダの生涯学習社会における高齢者教育の現状と課題
—オンタリオ州の事例の考察から—」

報告1 吳 世蓮 会員（関東学院大学・国際交流委員長）「韓国のソビマルシニアセンターにおける高齢者生涯学習の課題と可能性 一多文化教育の視点からみる地域実践の事例一」では、「ソビマルシニアセンター」において実施されている高齢者を対象とした生涯学習プログラムの実践が紹介され、近年では地域連携や協働活動も進展していることが報告された。

報告2 趙 天歌 会員（関東学院大学・非常勤）「中国における高齢者の社会参加と学びをつなぐ世代間交流 一社区における実践と課題一」では、中国各地の社区を拠点として展開されている「老幼融和／老幼統合」による世代間交流活動の活発化が示され、こうした活動が高齢者にとって地域参加と生涯学習を促進する重要な場となっていることが報告された。

報告3 成島 美弥 氏（ご招待・ブロック大学）「カナダの生涯学習社会における高齢者教育の現状と課題 一オンタリオ州の事例の考察から一」では、カナダにおける高齢者教育の現状と課題が報告された。特に、高齢者自身が学びの主体となり、ボランティア活動を通して地域づくりや異世代交流に貢献する市民参加型の非形式的学習機会が増加していることが明らかにされ、オンタリオ州の事例が紹介された。

協議においては、従来、高齢者を「支援される存

在」あるいは「社会的弱者」として捉える傾向が強かつたが、近年では、多くの高齢者が積極的に社会参加を果たし、「学びの主体」として再評価する視点の重要性が共有された。本研究課題では、韓国・中国・カナダという異なる文化的・社会的背景をもつ三か国の事例を通して、高齢者が自ら主体的に学び、地域社会に貢献することを目指す生涯学習の在り方について検討がなされたことが確認された。

報告：吳 世蓮（国際交流委員長）



公開シンポジウム報告

スクール・コミュニティにおける学びと協働

—学習者のエージェンシーと地域社会の可能性—

【司会】

玉井 康之会員（北海道教育大学）

【報告者】

報告1：佐藤 千津会員（国際基督教大学）

「スクール・コミュニティをめぐる論点と課題 —エージェンシーの観点から—」

報告2：米川 充氏（にしみたか学園コミュニティ・スクール委員会委員／三鷹市公立学校 PTA 連合会前会長）

「コミュニティ・スクールからスクール・コミュニティへ —成果と課題—」

報告3：田中 康雄氏（東京都台東区立上野小学校校長）

「TAITO フューチャースクールの取り組み —経緯と現状—」

第22回大会の公開シンポジウムでは、OECDで注目されたエージェンシー概念を元に、スクール・コミュニティの可能性をとらえた。

まず佐藤会員から理論提案を行い、地域の立場から米川氏が、学校の立場から田中氏が報告した。佐藤氏は、OECDのエージェンシー概念から、スクール・コミュニティが新しい教育活動のエージェンシーを高める上で、重要な役割を果たす可能性があることを指摘した。20年前に制度化されたコミュニティ・スクールでは、地域が学校に関わる教育的意義が唱えられてきた。その役割は拡大し、学校が地域のプラットフォームになり、地域づくりの中核としてのスクール・コミュニティの役割も果たすようになった。

このような中で佐藤氏は、コミュニティの中で学校と地域の関係が永続できるシステムを構築することが重要であることを指摘した。また学校と地域の関係を創る価値づけと信念が重要であることを指摘し、それがエージェンシーの条件となることを指摘した。

米川氏は、地域学校連携活動を増やしながら、三鷹市のコミュニティ・スクールが地域住民の核としての学校に成長するスクール・コミュニティ形成過程をとらえた。この過程で、地域住民が学校の中で何ができるかの検討を重ね、地域住民意識調査も行うことで、徐々に活動が増え、住民協議会も500名近くになったことが紹介された。子ども達に何ができるかを考えることが、住民達の喜びとつながりを向上させていくエージェンシーの条件となっていた。

田中氏は、台東区の学校で「まちを学びのキャンパス」にして社会を創造するという方針の下、学校としても団体と結びつきながら、子ども達の体験活動を増やしていく過程をとらえた。それにより、子どもが地域を探究して、より学びたくなる環境の動機を高めていったこと、そしてそれが社会創造の担い手になるという夢を位置づけていったことが紹介された。それが街を変革するエージェンシーの条件となつた。

これらのエージェンシーの観点を踏まえながら、地域づくりと学校づくりをとらえると、スクール・コミュニティの中に新しいものを創造し変革していく条件が存在することも明らかとなつた。スクール・コミュニティのエージェンシーをどのように運動させていくかが、これからの中学校教育の課題でもあろう。

報告：玉井 康之（北海道教育大学）



理事会報告

2024年度 第4回理事会

日時：2024年12月21日（土） 14:00～14:30

会場：web会議（「Zoom」使用、事務局（関西大学文学部教育文化専修合同研究室））

出席者：赤尾勝己、岩崎正吾、佐藤千津、前田耕司、田中達也、入澤充、吳世蓮、金山光一、北野秋男、栗原幸正、坂内夏子、志々田まなみ、柴田彩千子、佐久間邦友、田中謙、新関ヴァット郁代、平井貴美代、白鳥絢也、堀井啓幸、大谷杏、荻野亮吾、吉田尚史、田中潤一、木田竜太郎

（役職・地区順、敬称略） 計24名

欠席者：玉井康之、貝ノ瀬滋、佐藤晴雄、入澤充、上原直人、

益川浩一、富士原雅弘

（役職・地区順、敬称略） 計7名

陪席者：今井貴代子（事務局幹事）

（五十音順、敬称略） 計1名

司会 赤尾勝己会長

I. 議題：

2024年度第3回理事会議事録確認（資料02①）

2024年度総会議事録確認（資料02②）

【報告事項】

（1）事務局報告（一般会務報告）（田中 潤一事務局長）
(資料03)

（2）第21回研究大会報告（赤尾 勝己会長）（資料なし）

（3）その他

【審議事項】

（1）第22回大会の開催準備について（坂内 夏子大会実行委員長）（資料なし）

（2）入退会者について（田中事務局長）（資料04）

（3）各種委員会審議

①年報編集委員会（平井 貴美代委員長）（資料05）

②研究推進委員会（吉田 尚史委員長）（資料06）

③国際交流委員会（吳 世蓮委員長）（資料07）

④学会賞選考委員会（赤尾勝己会長）（資料なし）

⑤『学習社会研究』編集委員会（田中達也委員長）（資料なし）

⑥広報WG

・『年報』の電子化について（田中謙理事）（資料08①）

・『会報』No.21の発行について（赤尾会長）（資料08②）

（4）2024年度第1回理事会について（赤尾 勝己会長）

【配付資料】

資料01 2024年度第4回理事会次第

資料02 2024年度第3回理事会議事録（案）、2024年度総会議事録（案）

資料03 一般会務報告

資料04 入退会者について

資料05 年報編集委員会資料

資料06 研究推進委員会資料

資料07 国際交流委員会資料

資料08 電子化WG資料

資料09 会報案

資料10 広報検討チーム資料

回覧資料 入会申込書、退会申込書

2025年度 第1回理事会

日時：2025年4月19日（土） 14:00～16:00

会場：web会議（「Zoom」使用、事務局（関西大学文学部教育文化専修合同研究室））

出席者：赤尾勝己、岩崎正吾、佐藤千津、前田耕司、田中達也、吳世蓮、金山光一、北野秋男、栗原幸正、坂内夏子、佐藤晴雄、志々田まなみ、田中謙、新関ヴァット郁代、上原直人、白鳥絢也、堀井啓幸、平井貴美代、富士原雅弘、大谷杏、荻野亮吾、吉田尚史、田中潤一、木田竜太郎

（役職・地区順、敬称略） 計24名

欠席者（届出）：玉井康之、貝ノ瀬滋、佐久間邦友、柴田彩千子、入澤充、益川浩一

（役職・地区順、敬称略） 計6名

陪席者：今井 貴代子（事務局幹事）・安井 智恵（学会賞選考委員）

（五十音順、敬称略） 計2名

司会 赤尾勝己会長

I. 議題：

2024年度第4回理事会議事録確認（資料02）

【報告事項】

（1）事務局報告（一般会務報告）（田中事務局長）（資料03）

(2) その他

【審議事項】

- (1) 第 22 回大会の開催準備について (坂内 夏子大会実行委員長、赤尾 勝己会長) (資料 04)
- (2) 入退会者について (田中事務局長) (資料 05)
- (3) 2025 年度活動計画案 (赤尾 勝己会長) (資料 06)
- (4) 2025 年度予算案 (大谷 杏理事) (資料 07)
- (5) 各種委員会審議
- ①年報編集委員会 (平井 貴美代委員長) (資料 08)
- ②研究推進委員会 (吉田 尚史委員長) (資料 09)
- ③国際交流委員会 (吳 世蓮委員長) (資料 10)
- ④学会賞選考委員会 (安井 智恵委員) (資料 11)
- ⑤『学習社会研究』第 6 号編集委員会 (田中 達也委員長)
- ⑥電子化 WG (田中 謙理事) (資料 12)
- (6) 次期理事選挙に関する選挙管理委員会について (赤尾 勝己会長) (資料 13)
- (7) 2024 年度第 2 回理事会開催日程について (赤尾 勝己会長) (資料なし)
- (8) その他

【配付資料】

- 資料 01 2025 年度第 1 回理事会次第
- 資料 02 2024 年度第 4 回理事会議事録 (案)
- 資料 03 一般会務報告
- 資料 04 第 22 回大会実行委員会資料
- 資料 05 入退会者について
- 資料 06 2025 年度活動計画案
- 資料 07 2025 年度予算案
- 資料 08 年報編集委員会資料
- 資料 09 研究推進委員会資料
- 資料 10 国際交流委員会資料
- 資料 11 学会賞選考委員会資料
- 資料 12 電子化 WG 資料
- 資料 13 次期理事選挙及び選挙管理委員会に関する資料
- 回覧資料 入会申込書、退会申込書

2025 年度 第 2 回理事会

日時：2025 年 7 月 19 日 (土) 14:00～16:00

会場：web 会議 (「Zoom」使用、事務局 (関西大学文学部教育文化専修合同研究室))

出席者：赤尾勝己、岩崎正吾、佐藤千津、前田耕司、田中達也、入澤充、吳世蓮、金山光一、栗原幸正、坂内夏

子、佐久間邦友、佐藤晴雄、志々田まなみ、田中謙、上原直人、白鳥絢也、平井貴美代、富士原雅弘、益川浩一、大谷杏、吉田尚史、田中 潤一

(役職・地区順、敬称略) 計 22 名

欠席者 (委任状届出)：貝ノ瀬滋、北野秋男、柴田彩千子、堀井啓幸、荻野亮吾、木田竜太郎

(役職・地区順、敬称略) 計 6 名

欠席：玉井康之、新関ヴァット郁代

(役職・地区別、敬称略) 計 2 名

陪席者：今井貴代子 (事務局幹事)、出相泰裕 (選挙管理委員長)

(五十音順、敬称略) 計 2 名

司会 赤尾 勝己会長

I. 議題：

2025 年度第 1 回理事会議事録確認 (資料 02)

【報告事項】

- (1) 事務局報告 (一般会務報告) (田中事務局長) (資料 03)
- (2) 第 22 回大会の開催準備について (坂内 夏子大会実行委員長)
- (3) 各種委員会報告
- ①年報編集委員会 (平井 貴美代委員長) (資料 04)
- ②研究推進委員会 (吉田 尚史委員長) (資料 05)
- ③国際交流委員会 (吳 世蓮委員長) (資料 06)
- ④『学習社会研究』第 6 号編集委員会 (田中 達也委員長) (資料 07)
- ⑤電子化 WG (田中 謙理事) (資料 08)
- (4) その他

【審議事項】

- (1) 入退会者について (田中事務局長) (資料 09)
- (2) 第 8 期理事会 理事選挙結果について (出相 泰裕選挙管理委員長) (資料 10)
- (3) 2025 年度予算案について (資料 11) (大谷 杏理事)
- (3) 2026 年度大会校について (赤尾 勝己会長)
- (4) 広報機能強化のための提案について (赤尾 勝己会長) (資料 12)
- (5) 2025 年度第 3 回理事会開催日程について (赤尾 勝己会長) (資料なし)

(6) その他

【配付資料】

- 資料 01 2025 年度第 2 回理事会次第

- 資料 02 2025 年度第 1 回理事会議事録 (案)
 資料 03 一般会務報告
 資料 04 年報編集委員会資料
 資料 05 研究推進委員会資料
 資料 06 国際交流委員会資料 2025 年度活動計画案
 資料 07 『学習社会研究』編集委員会資料 2025 年度予算案
 資料 08 電子化 WG 資料
 資料 09 入退会者について
 資料 10 理事選挙結果資料
 資料 11 2025 年度予算案
 資料 12 広報機能強化のための提案について
 回覧資料 入会申込書、退会申込書

2025 年度 第 3 回理事会

日時：2025 年 9 月 6 日 (土) 11:00～12:30

会場：早稲田大学 14 号館 505 室

出席者：赤尾勝己、前田耕司、田中達也、玉井康之、入澤充、
 貝ノ瀬滋、吳世蓮、栗原幸正、坂内夏子、佐久間邦友、志々田まなみ、柴田彩千子、田中謙、上原直人、平井貴美代、大谷杏、吉田尚史、田中潤一、木田竜太郎

(役職・地区順、敬称略) 計 19 名

陪席者：栗栖淳 (次期理事)、島川崇 (次期理事)、菱田隆昭 (次期理事)、平山雄大 (次期理事)、古里貴士 (次期理事)、宇内一文 (次期理事)、渋江かさね (次期理事)、若槻健 (次期理事)、今井貴代子 (事務局幹事)、佐々木保孝 (選挙管理委員) 計 10 名

欠席者 (委任状届出)：岩崎正吾、北野秋男、佐藤千津、白鳥絢也、堀井啓幸、富士原雅弘、益川浩一、武井哲郎 (次期理事)

計 8 名

欠席者：金山光一、佐藤晴雄、新関ヴァット郁代、荻野亮吾 (役職・地区順、敬称略) 計 4 名

司 会 赤尾 勝己会長

I. 議 題：

2025 年度第 2 回理事会議事録確認 (資料 02)

【報告事項】

- (1) 事務局報告 (一般会務報告) (田中事務局長) (資料 03)

(2) 第 22 回大会の開催報告について (坂内 夏子大会実行委員長) (資料なし)

(3) 各種委員会報告

- ①年報編集委員会 (平井 貴美代委員長) (資料 04)
 ②研究推進委員会 (吉田 尚史委員長) (資料 05)
 ③国際交流委員会 (吳 世蓮委員長) (資料 06)
 ④『学習社会研究』編集委員会 (田中 達也委員長) (資料 07)
 ⑤電子化 WG (田中謙主査・理事) (資料 08)

(4) その他

【審議事項】

- (1) 入退会者について (田中事務局長) (資料 09)
 (2) 2024 年度決算案・会計監査 (大谷理事・幹事) (資料 10)
 (3) 2025 年度予算案について (大谷理事・幹事) (資料 11)
 (4) 第 8 期会長選挙の開票結果について (佐々木保孝選挙管理委員) (資料 12)
 (5) 第 8 期役員体制案 (第 8 期会長候補者) (別添資料 1)
 (6) 第 8 期監査の選出 (第 8 期会長候補者) (別添資料 2)
 (7) 2025 年度第 4 回理事会開催日程について (第 8 期会長候補者) (資料なし)

(8) その他

【配付資料】

- 資料 01 2025 年度第 3 回理事会次第
 資料 02 2025 年度第 22 回理事会議事録 (案)
 資料 03 一般会務報告
 資料 04 年報編集委員会資料
 資料 05 研究推進委員会資料
 資料 06 国際交流委員会資料
 資料 07 『学習社会研究』編集委員会資料
 資料 08 電子化 WG 資料
 資料 09 入退会者について
 資料 10 2024 年度会計報告 (案)
 資料 11 2025 年度予算 (案)
 資料 12 第 8 期会長選挙の開票結果について資料
 別添資料 1 第 8 期役員体制案
 別添資料 2 第 8 期監査案
 別添資料 3 第 8 期理事一覧

第 22 回総会報告

日時：2025 年 9 月 6 日（土）14：45～15：45

会場：早稲田大学 14 号館 201

1. 会長挨拶（赤尾勝己会長）

2. 大会実行委員長挨拶（坂内夏子第 22 回大会実行委員長）

3. 議長団選出

4. 報告事項

（1）事務局報告（一般会務報告）（田中事務局長）（資料 02）

（2）第 22 回大会実行委員会報告（坂内夏子第 22 回大会実行委員長）

（3）各種委員会報告

①年報編集委員会（平井貴美代委員長）（資料 03）

②研究推進委員会（吉田尚史委員長）（資料 04）

③国際交流委員会（吳世蓮委員長）（資料 05）

④『学習社会研究』第 6 号編集委員会（田中達也委員長）（資料なし）

⑤電子化 WG（田中謙理事）（資料 06）

（4）その他

5. 審議事項

（1）2024 年度決算案（田中事務局長）（資料 07）

（2）2024 年度会計監査（大野順子監査、若槻健監査）（資料 08）

（3）2025 年度活動計画案（田中事務局長）（資料 09）

（4）2025 年度予算案（田中事務局長）（資料 10）

（5）第 8 期理事選挙及び会長選挙の結果（佐々木保孝選挙管理委員）（資料 11）

（6）第 8 期役員体制案（第 8 期会長候補者）（別添資料 1）

（7）第 8 期監査の選出（第 8 期会長候補者）（別添資料 2）

（8）第 23 回大会開催日程・会場校について（第 8 期会長候補者）（資料なし）

6. その他

7. 議長団解任

【配付資料】

資料 01 次第

資料 02 一般会務報告

資料 03 年報編集委員会報告資料

資料 04 研究推進委員会理事会資料

資料 05 国際交流委員会理事会資料

資料 06 電子化 WG 資料

資料 07 2024 年度決算（案）

資料 08 2024 年度会計監査報告

資料 09 2025 年度活動計画（案）

資料 10 2025 年度予算（案）

資料 11 第 8 期理事選挙及び会長選挙の結果資料

別添資料 1 第 8 期役員体制案資料

別添資料 2 第 8 期監査案

別添資料 3 第 8 期理事一覧

第8期会長 ご挨拶

佐藤 千津(国際基督教大学)

本年8月の役員改選により第8期会長を拝命いたしました。初代会長から数えて7人目となります。歴代会長はいずれもご高名な研究者で、その後に名を連ねることが憚られるばかりです。重責を感じておりますが、先達が築かれた伝統を大切に受け継ぎ、学会の更なる発展のために全力で務めさせていただきます。

私が本学会に入会したのは学会創立から間もない時期で、のちに第4期会長を務められた前田耕司先生のご紹介でした。「学習社会」をその名に冠した新しい学会に期待しながら入会申込書をしたためた日が昨日のことのように懐かしく思い出されます。入会後、年報編集委員(第2期)、学会創立10周年記念誌編集委員会副委員長(第4期)、事務局長(第4期)、副会長(第5期、第6期、第7期)などを務めるなかで、多くを学ばせていただきました。そのことに深く感謝しつつ、学会運営に関して学んだことをこれからは会長として活かし、会員の皆様の学会活動がますます充実したものになりますように力を尽くしてまいります。本学会は、生涯学習に関する理論的・実践的研究を促進し、研究交流活動を通じて学習社会の発展に寄与することを目的としております。対象とする研究分野が広く、会員数の点でもまだ「伸びしろ」がある学会です。今後は会員の皆様からも奇譚のないご意見をぜひお寄せいただき、有意義で実りの多い研究交流の場をともに創り上げていきたいと考えております。これからもよろしくお願い申し上げます。

最後に、今なお世界の平和と安定を脅かす動きが絶えず、多くの人々が学びから遠ざけられています。一日も早く世界中のあらゆる人々に平和と安らぎが訪れるこことを切に祈ります。

年報編集委員長 ご挨拶

若園 雄志郎(宇都宮大学)

このたび、年報編集委員長を拝命いたしました若園雄志郎と申します。5代目委員長の岩崎正吾先生の元では幹事を務めさせていただいており、7代目の平井喜美代先生の時にもやはり幹事として委員会を補佐してまいりました。岩崎先生、平井先生、そして6代目の入澤充先生といった、たいへん優れた先生方の後にこのような大役を務めるには実力不足もあるかと思っておりますが、ぜひ皆様のご助力をいただきながら、学会の発展に寄与できればと考えております。

近年の学校と地域をめぐる状況はめまぐるしいものがあり、特に学校との関わりではコミュニティ・スクールと地域学校協働活動、あるいは総合的な探究の時間と地域との協働、STEAM教育と文理複眼といった様々な「チャレンジ」が次々と行われております。これらを丁寧に読み解くとともに、そこにある課題についてアプローチしていく研究がより求められているのではないかと感じております。

これは一例ではありますが、ぜひ積極的な年報への投稿により、研究成果を社会へ向けて広く発信し、議論を活発化する一助とできればと考えております。

研究推進委員長 ご挨拶

上原 直人(名古屋工業大学)

このたび研究推進委員長に就任した上原直人と申します。

前委員長の吉田尚史先生のもとで蓄積されてこられた成果を引き継ぎ、本学会の研究活動のさらなる発展を目指し尽力していく所存です。

研究推進委員会の活動は、毎年の研究大会における「課題研究」の企画・運営が中心となります。学習社会の構築を目指して、理論的並びに実践的研究を重視する本学会には、教育と学習について様々な切り口から探求する会員が集い、研究大会における自由研究発表も活発に行われています。こうした会員の多様な研究関心も汲み取りながら、現代的で有意性のあるテーマを課題研究として設定し、研究活動を促進していく所存です。

今後、「課題研究」の詳細については、委員会で協議しながら進めていますが、会員の皆様からも積極的にご意見いただけますと幸いです。至らぬ点も多々あるかと思いますが、3年間よろしくお願ひいたします。

国際交流委員長 ご挨拶

栗栖 淳(国士館大学)

吳世蓮前国際交流委員長の後任を引き受けました栗栖淳と申します。本学会はすでに二十余年にわたって学習社会についての研究を重ねており、そのなかには、多くの国際交流委員会としての実績もございます。いまはただ、任の重さを思ふばかりです。

近年の大会を振り返ると、吳世蓮前委員長のもと、諸外国の事例を取り上げつつ、「生涯学習における高齢者教育」についての研究や、「社会的に周縁に置かれた人々」を意識した「多様性の時代における教育への問い」についての研究を共有しました。「日本学習社会学会における国際交流」においては、金塚基元国際交流委員長は、「国内の地域と世界とを橋渡しできるような交流を促し、今後の情勢を見通しながら研究活動の発展基盤を形成する機会を提供することに資することを目標」といたすとされておられます。これまでに大切にされてきた視座を忘れず、国際交流委員会として適切な研究テーマを考え、会員の皆様と成果を共有できるよう努力していきたいと存じます。ご指導をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

お知らせ

1. 新入会員

2024年12月から2025年9月までに17名の方々が入会されました。

2. 第23回大会の開催

第23回研究大会は和洋女子大学(大会実行委員長 菅田隆昭理事)を開催校とする予定です。開催日程は、9月5日(土)・6日(日)の予定です。変更が生じた場合は、学会webサイトにて改めてお知らせいたします。

3. 会員情報の更新

ご異動やご転居などにより会員情報に変更が生じましたら、お早めに事務局までお知らせください。

4. 寄贈図書(2024年10月～2025年9月受付分)

- (1) 北野秋男(2024)『学力テストのイノベーションとダイバーシティ：全国の学力向上政策の実証的研究』風間書房
- (2) 玉井正明・玉井康之(2024)『木下恵介監督映画「なつかしき笛や太鼓」の舞台裏：小島の満天に星は輝く』北樹出版
- (3) 梶野光信(2025)『ユースソーシャルワーク 社会教育行政の新たな役割』生活書院
- (4) 萩野亮吾・近藤牧子・丹間康仁(2025)『地域学習支援論 学び合える社会関係のデザイン』大学教育出版
- (5) 岡幸江・内田光俊・萩野亮吾・丹間康仁・池谷美衣子・森村圭介(2025)『ポストコロナの公民館』大学教育出版
- (6) 全国社会教育職員養成連絡研究連絡協議会(2025)『社会教育職員研究』第31号、同(2025)『社会教育職員研究』第32号

年報第22号の自由投稿論文募集

年報編集委員会

会員の皆様には、ご健勝にてお過ごしのことと存じます。さて、年報第22号の自由研究論文の投稿につきまして、以下の要領で募集しますので奮ってご投稿ください。なお、原稿の提出要領の詳細や編集規程に関しましては、学会のホームページ (<http://learning-society.org>) をご覧ください。

1. 投稿論文テーマ

論文のテーマは日本学習社会学会の活動の趣旨に沿うものとする。

2. 投稿者資格

- (1) 本学会会員で前年度までの会費を納めている者
- (2) 上記以外のもので編集委員会が特に委嘱または承認した者

3. 投稿論文資格

投稿論文は未発表のものに限る。ただし、口頭発表及びその他の配布資料の場合はこの限りではない。

4. 原稿規格

(1) 原稿の量

- a) 研究論文は図・表・注・引用文献・参考文献等を含めて16,700字、かつ年報の9頁分以内（ただし表題と執筆者名の分を9行あける）とする。
- b) 研究ノートは図・表・注・引用文献・参考文献等を含めて13,000字以内、かつ年報の7頁分以内（ただし表題と執筆者名の分を9行あける）とする。
- c) 実践報告は図・表・注・引用文献・参考文献等を含めて8,000字以内、かつ年報の4.5頁分以内（ただし表題と執筆者名の分を9行あける）とする。
- d) ワープロ原稿の場合は横書きで印字する（図・表等の場合はこの限りではない）。原稿用紙の場合はA4版400字詰原稿用紙（横書き）を用いる。いずれの場合も字数制限を厳守すること。ただし、年報における見出し・小見出し等は2行取りとする。
- e) 年報編集委員会が特に枚数を指定した原稿は上記を適用しないものとする。

(2) 図・表・注等の規格

- a) 図・表はワープロ原稿の場合には論文中に挿入または貼付し、原稿用紙の場合には原稿中に挿入せず別の用紙に貼付し、その印刷位置・サイズをあらかじめ原稿に表示しておくものとする。
- b) 注・引用文献・参考文献等は原稿末尾に一括して掲げるものとする。
- c) 注の番号形態は「(1) (2) …」とする。

(3) 審査の公正を期すための留意事項

- a) 氏名・所属機関名は原稿には記入せず、別紙（5. 提出原稿・書類の④）に記載する。
- b) 本文および注において「拙稿」「拙著」等の投稿者名が判明するような記述を行わない。

5. 提出原稿・書類

投稿にあたっては以下の原稿及び書類を提出すること。なお、提出された原稿及び書類は原則として返却しない。投稿者は論文原稿のコピーを必ず保存すること。

- ① 原稿 1 部
- ② 和文題目及び約 800 字の和文要旨 1 部
- ③ ②の冒頭に、日本語のキーワード 5 語以内を記入する。
- ④ 下記の事項を記載した別紙 1 部
 - ・執筆者氏名（日本語及び英語表記）
 - ・所属機関名（日本語及び英語表記）
 - ・研究論文、研究ノート、実践報告のいずれかを明示し、その題目（和文及び英文）
 - ・連絡先等（郵便番号、住所、電話・FAX 番号、e-mail アドレス）
- ⑤ ①～④の Word 形式の電子ファイルが入った電子媒体（CD-R、USB メモリー等）
- ⑥ 研究論文・研究ノートの場合、掲載が決定されたならば、直ちに英文題目及び 800 語～1,000 語の英文要旨 3 部を提出する。その際、冒頭に英語のキーワード 5 語以内を記入する。

6. 提出期限及び提出先

原稿及び書類は 4 月 20 日（当日消印有効）までに年報編集委員会事務局宛に提出するものとする。

7. 校正

- (1) 筆者校正は原則として初校のみとする。
- (2) 校正は最小限の字句の添削または変更にとどめる。

8. その他

- (1) 執筆に関わる事項で不明の点は年報編集委員会事務局に問い合わせせる。
- (2) 応募原稿の採否は、日本学習社会学会年報編集規程にもとづき年報編集委員会が決定する。

日本学習社会学会 年報編集委員会事務局

〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東 7-1-2

宇都宮大学 若園雄志郎研究室気付

日本学習社会学会年報編集委員会事務局

年報編集委員会 URL

<https://learning-society.org/publications/annual>